

伝統の継承とたゆみない挑戦

木材ならではの美しくあたたかみある空間を提供する 建築内装業のフロントランナー



代表取締役 宮崎 真里子 氏

京都迎賓館の広間を始め、寺社建築からホテル、公共施設、個人邸まで様々な内装を手がける宮崎木材工業株式会社。建築内装業のフロントランナーとして常に新たな挑戦を続ける同社の代表取締役 宮崎真里子氏にお話を伺いました。

京指物から建築内装へ

御所出入りの指物師のもとで修業を積んだ初代が、1856年(安政3年)に京都御所の近くで京指物職として創業したのが当社の始まりです。以来、京指物の技術を生かして家具を作り続け、幕末の動乱、戦争など幾多の困難を乗り越え、船舶の内装を手がけたのを機に建築内装業へと進出し、現在に至ります。

元々、指物職の地位は低く、納入時の出入りも勝手口からしか許されませんでした。世間に認められる転機となったのは、東京遷都の後に勸業政策の一つとして、1871年(明治5年)から開催された京都博覧会で家具として初めて美術協会の賞をいただいたのと、1895年(明治28年)の第4回内国勸業博覧会に出展した桑製の香棚を皇后宮にお求めいただいたことで、そこから高級な家具作りに進んでいきました。

大正時代に入ると、時代の変化に合わせて洋家具を作るようになります。それまでの収納家具(箱もの)とは作り方が全く異なる椅子などの家具(足もの)を作るため、新しい技術を研究・開発しました。また、洋家具を求めお客様のために、家具単体ではなく照明から敷物、空間を飾る絵画、調度品まで部屋全体をコーディネートし、提案していました。その技術と実績が1938年(昭和13年)に「大阪商船あづま丸」の漆の蒔絵を施した桐材の壁材、天井材など船舶内装を受注することにつながりました。船の内装は10年進んでいると言われています。気温の差が激しく、揺れの中を航海する船舶の内装は、無垢材だと割れや反りが出てしまいます。そこで木材をそのまま使うのではなく、薄くスライスして貼り合わせる技術の開発に着手しました。また海の上を航海するので安全に対して大変厳しく、高い耐火性能が必要となります。そこで燃えにくい素材や不燃パネルの開発を始め、その技術が今に繋がってきています。

このように、常に新しいことにチャレンジしてきたことと、お客様の高い要望、そしてそれに応えるための努力と研鑽は、京都にあったからこそです。また、高い技術や知識をもつ関連業種の職人や研究者、画家等芸術家の存在にも導かれたと考えています。「京都で160年続いている」ということ

だけで東京をはじめ他府県で信用していただけます。裏を返せば、そこまで頑張らないと続けてこれない厳しさが、京都にはあるということかもしれません。

歴史ある建築物の移築

最近では、歴史ある建物の移築にも力を入れています。今年4月20日、東京・銀座の複合商業施設「GINZA SIX」の地下3階にオープンした「二十五世観世左近記念 観世能楽堂」では、渋谷にあった能楽堂を丁寧に解体し、一旦お預かりして、新しくできた銀座のビル内に移築するという大変重要なお仕事を任せていただきました。移築の作業では、原則、大きな傷等の補修以外は元のままに再現します。また、今回の新能楽堂では、檜舞台の柱を取り外し可能にし、ホールとしても使える新しい可能性が広がった舞台となっています。



二十五世観世左近記念 観世能楽堂

当社の強み

現在、当社の業務はすべて受注生産で、自社工場でお作りし、年商は約20億円です。施主様や施工業者様、設計の先生



上質で豊富な材料



高度な手技による作業

**不燃材・難燃材の製造工程**

木材を含浸機タンクに入れて難燃・不燃液を投入する。

真空状態にすることで難燃・不燃液を木材に含浸させた後乾燥させる。

処理前と処理後に一枚ずつ計量して薬液が含浸しているか確認する。

含浸機と乾燥中の木材

方の多様なご要望にきめ細かく対応し、木ならではの良さが伝わる高品質なものをお納めしています。

当社の強みの一つは、良い原材料を保有していること。質の高い仕事には、良い原材料が欠かせません。現在、樹種にして150種類以上を有しており、中には、最近ではなかなか流通しない希少材や輸入禁止となった材料、長さ12mという長尺のものもあります。この貴重な材料を使用して、木取り→化粧→貼り→加工→組み立て→塗装までを自社工場内で行うことで、長年変わらない品質を生み出すことができます。

それを支えるのが当社の社員が持つ高い技術で、これがもう一つの強みです。同じものを大量に作っている工場ではなく、人が作っていますので、社員一人一人が財産になります。工事現場に内装材を取り付けて初めて完成となりますので、工場内では完成形を見ることができません。完成現場を視察する機会を設けたところ、貴重な研修の場になり、モチベーションアップにもつながっています。若い人材の採用も重要だと考えており、今年度は8名を新規採用しました。3箇月間でいろいろな部署を体験してもらって、適性ある部門に配属された先で先輩社員から学びますが、社内全体としての教育

係も設置し、人材育成を行っています。

新技術の開発は、社内の研究室を中心に進めており、技術相談や製品の試験等で中小企業技術センターも利用しています。

今後の展開

2010年(平成22年)には公共建築物等木材利用促進法が施行されました。この法律は、国が率先して木材利用に取り組み木材全体の需要を拡大することをねらいとしているものです。これにより、本物の木材を使っていこうという気運が高まることを期待しています。

木材利用を広げるためには、木の弱点である燃えやすさを克服する必要がありますが、この「木材の不燃化」に関しても力を入れています。現在、日本で不燃加工ができるのは杉や檜などの針葉樹に限られており、異なる風合いを持つ広葉樹についても不燃化の技術の確立を目指すことで、木材の可能性を更に広げていきたいと考えています。

また、新しい取り組みとして、本物の木材に気軽に親しんでいただくきっかけになればと、昨年、新ブランド「MOKK」を立ち上げました。現在、突板(木材を薄くスライスした板で主に化粧用材として使用する)を利用したステッカーとお皿としてもカッティングボードとしても使える無垢材を用いたボードを販売しています。実はこれ、木材を使った造作に出る端材を使ったものなのです。せっかくの上質な木を処分してしまうのは「もったいない」という気持ちから始めたもので、お客様からもよい反響をいただいています。



「MOKK」ステッカー



「MOKK」ボード

これからも、伝統的な指物の技術を継承しながら、常に新しいことにチャレンジし、木材ならではの美しさやあたたかみある空間をお届けしてまいります。

Company Data**宮崎木材工業株式会社**

- 代表者／代表取締役 宮崎 真里子
- 所在地／(本社)〒604-0804 京都市中京区夷川通堺町西入る 絹屋町129 宮崎平安堂ビル4階
- 電話番号／075-222-8112
- ファクシミリ／075-222-8113
- 創業／1856年(安政3年)
- 会社設立／1942年(昭和17年)1月
- 資本金／2億6000万円
- 従業員／100人
- 事業内容／建築内部造作、家具、建具、住宅・設計施工、エレベーター内装

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 企画連携課 企画・情報担当 TEL:075-315-8635 FAX:075-315-9497 E-mail:kikaku@kptc.jp